

# AI地政学の転換点：2026年G7エヴィアン・サミットと「ミュトス」の衝撃

## 技術的脅威：AIの「兵器化」とミュトスの衝撃



最先端AIモデル「クロード・ミュトス (Claude Mythos 5)」  
安全フィルターを一切持たない「兵器級」の  
綿密な能力を持ち、未だの脆弱性(ゼロデイ)  
を自発的に発見・攻撃コード化する能力  
を備えています。

アクセス対象比較

Claude Fable 5	Claude Mythos 5
一般企業、 消費者者	限隣生物体、 特定の政府者 未視
Claude Fable 5 世界の一般企業・ コンシューマー	Claude Mythos 5 兵器級の完全版。 フィルターなし。 無制限の脆弱性探案。

脆弱性特定能力が  
従来に10倍に飛躍



社会最悪への「窺」または  
「重大」なバグ発見数:1万件超

防御と攻撃の非対称性:  
修正のタイムラグ



- AIバグ発見:数時間
- 人間によるパッチ作成:  
変わらず  
真金のウィンドウ  
(攻撃側)



Claude Fable 5	Claude Mythos 5
一般企業 消費者者	限隣主任体 特定の政府



## 90分間の激震：米国の輸出管理指令



2026年6月12日

全世界一斉アクセス  
遮断の衝撃



アンソロビック、  
最新モデル提供停止



「みなし輸出」規制の極数  
米国外企業だけでなく、米国内の外国  
人囲益多やアンソロビック社内の  
外国籍従業員までアクセス権を剥奪



企業価値への打撃とIPOへの暗雲  
詳細150兆円のアンソロビック、最大  
顧客(株主)からの途惑と本環アクセス  
の不確実性でIPO戦略に汲限な支障

## 結論：新たな防衛パラダイム「AI冷戦」



サイバー空間における  
「相互確証破壊 (MAD)」  
「AIの攻撃はAIでしか防げない」と  
いう現実が、国家を重破競争的な  
AI投資へと隔り立てる新たな樹止力  
構造を生んでいます

## G7サミットの攻防：同盟国のジレンマと結束

異例の「AI昼食会」参加者  
トランプ大統領、高市首相、マクロン大統領  
親S国家完看と、アルトマン (OpenAI)、  
アモデイ (Anthropic)、ハサビス (Google  
DeepMind) からテック大手が豊銀対峙

「アメリカリスク」への各国の反応



デジタルを権を支援  
('ナショナリスト的'  
と既利)

「信頼できるパートナー」  
としての地位確立と  
独自の斬艦珍組み構  
架を構築



ビッグテックの提言:AI選合の構擦  
テック企融CEOたち、「現主主尊障者の分副」  
を響管し、米国主導の儘入和な闊闊監督機  
関の設立と、閉面国躍での所屬AIツール共有を  
該えた

2026年サミットの成果と限界

- ✓ 児童保護
  - ✓ 重要証物での対中包圍網
  - ? AIアクセス権などの  
枝心的なルール策定
- 米国の技術覇権が解明となりました



今後の戦略:「信頼の疑」の制度化  
同盟国は、完全な技術的店立 (ソプリンAI)  
よりも、網格なセキュリティ基準を満たし、米  
国の主輪モデルに安全に運用できる環境を  
証明することが現候的な鏡となります